

Q&A IC2-100

Q 本製品以外に準備する機器や消耗品は？

A ルミノメーター、ボルテックスミキサー、測定用チューブ（測定用プレート）、マイクロピペッター、滅菌水（ATPフリー水）、PBSバッファー、タンパク質アッセイ試薬など。

Q 検量線は測定日毎にとる必要がありますか？

A 測定データを比較検証するために、日差の有無やその度合いの指標となるよう、ATP標準液で既知濃度に対する発光量を確認しておいてください。

Q ウェルプレートで測定できますか？

A 発光測定するまでの検体前処理にウェルプレートの使用は不向きです。 シングルチューブをご利用ください。 発光測定には白色（または黒色）ウェルプレートの使用は可能です。 ウェルプレート対応のルミノメーターをご使用の場合、測定ウエルの指定と動作プログラムを事前に確認設定してください。

Q 検体細胞中のATP分解酵素やATP合成酵素が影響して、測定値が真の値から外れることがありますか？

A 影響を受けない試薬組成と操作フローになっています。

Q 細胞溶解液はタンパク質アッセイに使用できますか？

A 細胞溶解した試料をATP測定用と分ければ、タンパク質アッセイができます。 BCA法を推奨、ブラッドフォードは擬陽性の恐れがあり使用不可です。

Q 発光試薬に含まれるルシフェラーゼのオリジンは何でしょうか？ カルタヘナ法に準拠していますでしょうか？

A 北米産ホタル由来のルシフェラーゼを発光酵素として利用しています。 酵素とその製法はカルタヘナ法に準拠しています。